

食品流通

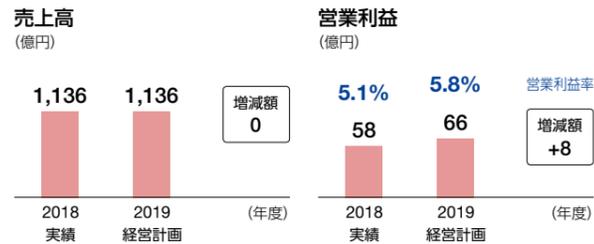
中国・東南アジアでの自販機事業と 店舗の「省人・省エネ」ソリューションを強化

執行役員 食品流通事業本部長
高橋 康宏



事業内容

- 自販機**
飲料自販機、
食品・物品自販機
- 店舗流通**
店舗設備機器、金銭機器



市場に対する課題認識

国内では、労働人口の減少に伴う人手不足や、地球温暖化などの社会課題を背景に、お客様である飲料メーカーやコンビニエンスストア、スーパーマーケットでは「省人」「省エネ」化を推し進めています。

海外においては、注力市場である中国でも、最先端のテクノロジーを駆使した省人型のコンビニが注目されるなど、自動化ニーズの高まりにより自動販売機(以下、自販機)の需要拡大が期待されます。市場形成段階である東南アジアでは、大手飲料メーカーの参入などを契機に、タイを中心に自販機へのニーズが高まりつつあります。

当部門の強み

当部門の強みは、業界トップシェアの自販機や、店舗向け冷蔵・冷凍ショーケースで培ってきた技術力です。なかでも、核となる「自動化」「冷熱」「貨幣識別」は、今後広がりが見込まれる「省人」「省エネ」のマーケットにおいても強みとなり、欠かせない技術です。

また、富士電機は業界に先駆けて、海外で自販機事業を開始しました。中国では2003年に現地企業と合併で大連に工場を立ち上げ、2015年に販売・サービス会社を設立。2016年には最新の自動化設備を備えた第二工場を建設し、開発・生産体制を強化しています。

東南アジアでは2016年にタイに自販機運営会社を設立し、2017年には(株)クボタからインドネシアの自販機製造・販売会社を買収。現在は両拠点を中心に、市場開拓を進めています。

2019年度重点施策

お客様のニーズを確実に捉え、中国・東南アジアでの自販機事業拡大、ならびに店舗向けソリューションの強化を図ります。

中国・東南アジアでの自販機事業拡大

自販機で「売れる」商品は国や地域によって千差万別です。好まれる温度や陳列する商品(飲料・食品・物品)の組み合わせ、さらには電子マネーへの対応や容器形状に適応した内部機構の開発など、現地ニーズを踏まえた機種ラインアップを拡充していきます。

さらに、お客様の自販機運営ノウハウが十分でない中国・東南アジア向けに、当該業務を効率化するためのオペレーションシステムを開発し、現地飲料メーカーの自販機事業参入を促します。

店舗向けソリューションの強化

お客様の「省人」「省エネ」課題の解決に向け、商品の在庫管理やトレーサビリティ、店舗環境の最適化を実現する「店舗管理システム」を開発します。

さらに、深夜時間帯は自販機に切り替わる「デュアル店舗・2Way販売機」や、店員の金銭管理作業を簡略化する「自動釣銭機」など、人手不足の解消を支援する製品ラインアップの拡充にも取り組みます。

クローズアップ

AIを活用し、お客様の自販機事業運営の効率化に貢献

中国では自販機事業運営のノウハウが不足している事業者が少なくありません。

売り切れによる機会損失や配送ルート効率化が進まないことなどが課題となっており、今後のさらなる自販機普及には投資採算性を高める効率的なオペレーションが鍵となります。

富士電機は国内トップメーカーとしての技術とノウハウを活かし、自販機の事業運営に必要な「中身商品の需要予測」「販売計画」「配送計画」などをAIでサポートするシステムの開発を進めています。

AIを活用したオペレーションシステムと自販機をパッケージで提供することによって、お客様の収益を最大化する仕組みづくりを行い自販機市場の拡大を加速します。



店舗の省人化・省エネに貢献

自販機の自動化技術を活かした店舗の省人化

店舗流通の分野において自販機で培った自動化技術のニーズが高まり、富士電機の自動釣銭機を搭載したセルフレンジや自販機コンビニの導入が拡大しています。

夜間の人員確保が困難な店舗には、新たな店舗形態を提案しています。日中はショーケース、夜間は自販機として稼働可能なデュアル店舗・2Way販売機を活用し、省人化と消費者の利便性向上を両立します。



デュアル店舗・2Way販売機

店内の気圧制御により空調消費電力と外部からの粉塵・ホコリの侵入を削減

富士電機は店内の気圧を制御するシステムを新たに開発・発売しました。

センサによって換気扇などによる排気と吸気のバランスを制御し店舗の自動ドア開閉時の外気侵入を抑制します。空調の負荷を減らすことにより10%の省エネを実現、さらに粉塵の侵入を30%削減し従業員の清掃負担も軽減します。

店舗の省人・省エネに貢献するこのシステムはお客様から好評をいただいています。

